

荒川英敏

デンマークの2014年のエネルギー消費量が過去32年間で最低となる。

デンマークエネルギー省は2014年の名目エネルギー消費量（以下、エネルギー消費量）が過去32年間で図1. の様に最低水準になったと発表しました。これは、1983年以来、デンマークでの最も低いエネルギー消費量となり石炭や天然ガスの消費量も減少、CO2排出量も減少しました。

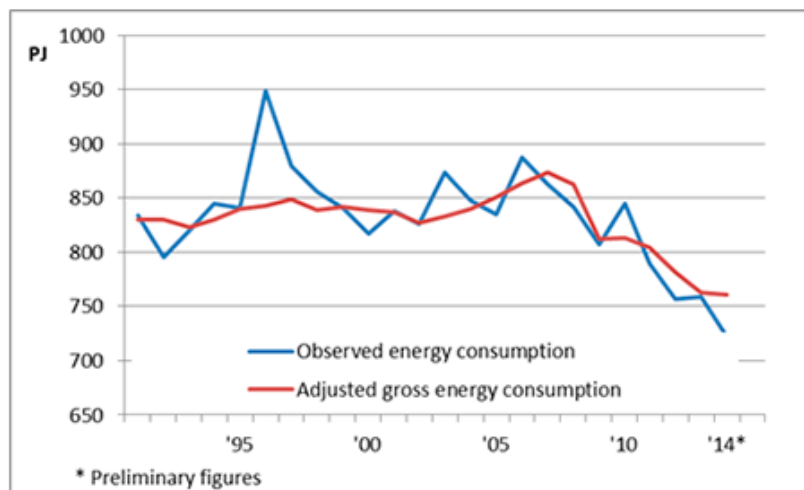


図1. : デンマークの1990年から2014年までのエネルギー消費量の推移

- は気候や燃料消費の変動を考慮した名目エネルギー消費量
- は気候や燃料消費の変動の影響を調整した実質総エネルギー消費量

出所：デンマークエネルギー省

2014年のエネルギー消費量は723 PJで前年より4.7%減少しました。これは石炭の消費量が17.3%減少、天然ガスの消費量が14.2%減少したことが大きく貢献し、低い消費となりました。一方、再生可能エネルギーの消費量は1.6%増加しましたがCO2排出量は7.7%の減少となりました。これらの数字は2014年の暫定値で正式な統計結果は本年秋に発表予定となっています。

エネルギー消費量の再生可能エネルギーのシェアは増加し続けています。主に風力発電や太陽エネルギーが増加した結果、2013年の24.4%から2014年の25.2%に増加しました。

デンマークのエネルギー自給率は、2013年の93%から2014年は90%に減少しましたが、ヨーロッパの中では高い水準を保っています。エネルギー自給率は1997年に100%となり、2004年には国内の消費量よりも56%も多くのエネルギーを生産しました。しかし2004年以降、北海油田からの石油と天然ガスの生産が低下傾向にあり、2013年にはデンマークはその生産量よりも多くのエネルギーを消費しました。しかし一次エネルギー総生産量（石油、天然ガス、石炭、再生可能エネルギーを含む）は消費を上回り2014年のエネルギー自給率は128%でエネルギーの輸出国でもあります。

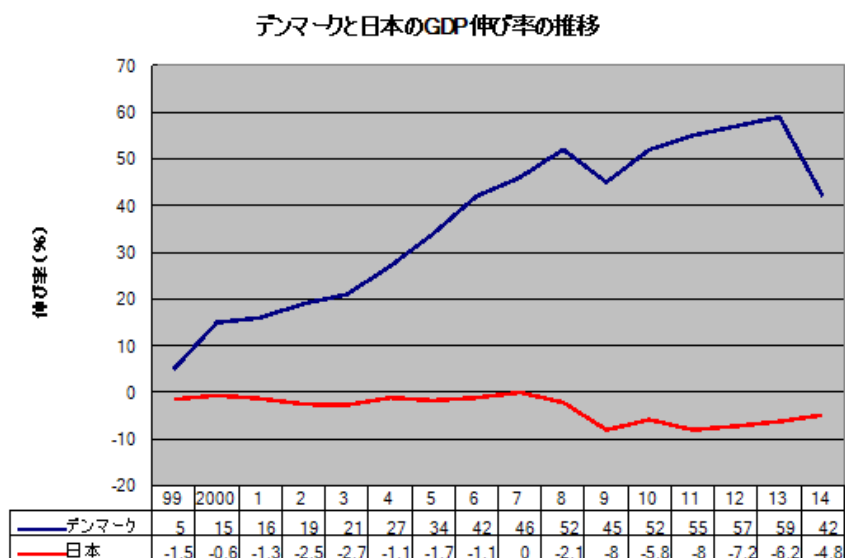


図2.デンマークと日本のGDP伸び率の推移(1999年から2014年)

出所：IMF 国際統計（1998年のGDPを100としての伸び率で筆者が作成）

デンマークは、図2.に示す様にこの15年間はGDPを伸ばしています。にもかかわらず図1.からエネルギー消費を減らしている様子が見て取れます。日本は失われた20年と言われGDPは伸び悩みましたが、エネルギー消費は若干ではありますが増え続けました。しかし、2011年の東日本大震災以降のエネルギー消費は減少しています。経済の成長基調を保ちながらエネルギー消費を減少させるデンマークの知恵を学ぶ必要がありそうですね。(了)